



異書加賀見東傳

下

へ13
3127
2



侍
へ13
3127
2

芝翫
當評

真壽加賀見東傷 下之卷



浪速 南笠亭房丸 戲述

乃々く 只個くの 日暮しもくし 蕪く 氷の
とちのど 暑きよ 来たる 芝居の 鳴らち ちとあ
まを 後の のめく くりもの 流せ ぬらぬら つけ ぬ
あき 評の 後中を ちりりの 籠へ ちとあ
く 扇行も ちとあ ちとあ ちとあ ちとあ ちとあ
まら 双據 ちとあ ちとあ ちとあ ちとあ ちとあ
ちとあ の 出ま ちとあ ちとあ ちとあ ちとあ ちとあ

の長きとくちうりてびんをいりあふらんとていしよめを
 てあふし甲しと婿は打擲をきてはあしうらむあつ
 るお西目めくといふあましまうし金登んていしよめと
 空てキエ、とてらもゆくとつて足どりして信りよめ
 長あくと兄弟ふんよわてあつのはお打ちとて子知
 したたてとそしと切の度り驚いざうやあまし
 サア其けい事しわてゆんな事ア相とりの葉づけ
 らふげとおもう二はみあじうらうら骨とけや
 ころしとてうまらぶ是くハヤをあしとて家ハ伊勢越の

殿と貞の伯母いといふとつてあましがうぶく
 フ、サア其候然の程は丹あつのと使切毒酒のんで
 うの使役よりたてた板橋武介からんありのご家へ
 深しやうくあへる養田内池の原にけいせんりのでま
 たてん是をの原に大うとい十うといよ原とて並腕の
 あい入るやモウ史とあつた人よま金糸とてつて
 二十うといといよきんとした若原橋であつた
 場の性根江戸中をさふらりあつた中しとて
 よくおとくばそんなありのいよめをあつたあつた
 の子者ぶのといつてとてさういふ十うといの原にや

東...

...

余^ら心^がけ^が薄^いよう^で此^役ハ^よと^きな^さ又^十人
 切^の相^良貞^の伯^母も^うや^りの^ごて^人積^田貞^の妻^の
 内^でお^おん^を妹^とも^しり^て貞^のあ^んご^まく^らり^し
 仕^打あ^ます^ま正^をま^との^つや^をあ^らう^もよ^うつ^てて^人
 切^の為^羽の^内う^まい^もと^もあ^らう^やい^さが^はれ^も
 う^一岩^永ハ^よし^事ハ^まま^てあ^らは^せも^うし^よ八^陣
 の^み斗^はも^うし^よ
トは内系が良ハちとたいたいの中あも
よてまうてまうてまんと引らうて 葉
 お^あら^わく^後ハ^そこ^まい^もあ^らう^もあ^らう^も
 先^がか^んし^んか^んま^ふり^ちが^さし^出て^行隔^り
 ち^よし^と回^るを^仕けん 葉 コレ^は葉^はさん^を説^のの

當^り評^判を^まう^の中^核合^をう^葉ま^まと^らり^て
 ち^なら^て行^隔下^だら^うて^まて^いも^あん^せ 葉 エ^はい^はく
 一^いお^うゆ^いお^やだ^かあ^らう^もあ^らう^もね^こり^や後^ハ今^の法^ハ
 あ^らう^もあ^らう^もあ^らう^もあ^らう^もあ^らう^もあ^らう^も
 が^なは^まあ^らう^もあ^らう^もあ^らう^もあ^らう^もあ^らう^も
 居^て是^もう^しよ^とし^よと^しよ^とし^よと^しよ^とし^よ
 お^まお^まお^まお^まお^まお^まお^まお^まお^まお^ま
 一^いく^何の^葉説^{さん}の^つけ^やな^らう^もあ^らう^も
 う^しよ^とし^よと^しよ^とし^よと^しよ^とし^よと^しよ^とし^よ
 う^しよ^とし^よと^しよ^とし^よと^しよ^とし^よと^しよ^とし^よ



三
公

ツサカ
城よりけつろつたゆいしつ時分
[印]

他代
[印]

編の結
[印]

ツツト
[印]

ツツト
[印]

おの戸
[印]

十部
[印]

ツツト
[印]

銃炮
[印]

との大
[印]

大建お備へいし...

仙代この人 政岡よあ

長めうし...

茶のく...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

茶...

酒肴のま 酒肴そだうら **長** へく 妙く **世** てア は秘へ 序がまて
 仕向く **長** へく **長** へく **長** へく 又 芝翫 **世** のお後 たりや
 まいの **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 めい **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 全表 **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 二 **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 ア **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 物 **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 物 **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 つ **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく

して **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 どう **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 ぶ **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 め **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 む **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 て **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 り **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 を **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 喉の **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 子 **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく
 歌 **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく **長** へく

善心

志願

あつた

あつた



三人て

高名

高名

横

横

横



長 七ウ あや色を塗て其唇のよをいりまカト
 よく 扱是ううこの智リ又大カと出入漢を組合の
 新長切り新田李楼九変化の所他多ぶ条 サアカ
 和日あ之日いさしてまわらつて大伴いやりつていさか
 たんく海刺う思つてサアおりのほくまてはるのりよ
 ともやおしりも終りつちまひりり入てくなくはるが
 毎毎本戸口ハ忠いさか合く合集あも
 お罵も人の飽さア、又ほまづけいりぬりのさてや
 おぶらて標つのだろく忠ちつと石壇のまおらめ

りのいさかしてト赤まふ角入を飲の ありアとそれと江戸中の人
 うか合くそ見てへといつていさか合めてるハサ
 おしりも人の飽さア、又ほまづけいりぬりのさてや
 と何が教方の足指うそおとさて手をもり
 中扇子をわらうてむらうてあてはる羽形のみ
 別あくおもしろくとわりのいさかつら何やあや
 たつてもおのりのおまがちやつてはるのり
 羽形と紙入を手拭まらるるまは括てまが夏
 わつてやう中だうて人もさるちのさつれ大あふ人
 たと足くやさんいさかつちがやほらうとあつていさか

たふし〜又まぬごの大玉ごのと実名をつけて大さき
うす高ち習ハつう及る内あむ一を御中もいつ
歌をつちら〜あ〜をみ横物を物横敷毎日
百本二百本出〜出たり横つ〜り葉炭こ〜
揚サ新〜大〜ら〜百粒本身は横〜り葉垣
二百さい車は葉〜りさいヤ〜入〜種み〜
芝居実敷つた〜大入〜いつ〜た忘〜り
振宿付〜波〜振主仕打ハ〜か加多屋の問〜
うけ来リ芝居〜唄〜と〜子あおを〜し
おれ〜中尾と振と移〜大王扱余り芝居か入

〜設け奈つて仕方が移〜ち〜と〜つて〜
出入用な〜い〜〜も〜續〜け〜
人金お村込ハ〜ツ二ツハ〜
〜ハと〜つ〜り〜持〜て〜
足〜く〜中〜目〜を〜む〜き〜ゆ〜
お前のけろ〜なん〜や〜お〜
妻は〜せ〜〜モウ〜
て投返〜子〜
〜一〜砕〜く〜仕〜打〜
〜砕〜く〜と〜あ〜つ〜く〜

東才下

二



橋つと
 千のり
 印のり
 堂のり



赤
 伊のり
 中
 其
 四季
 所
 の玉

尻餅鼻血ハお祓ともよめくあぢそりわけんくま
 らう終動ごころの大事の親王は懐あうつてい
 叶うまいか殊くとり内は日暮不作の癖す
 花見老女は酒登丁雅小所置奴もついで思うれ
 女石橋を身仕着行も又飛んで出づらうもろけす
 いまのり又もや愛又大人集何を失てふをな
 寔てハいあひ語を合茶屋料理屋ううは見
 當つてくくくく人の出入て腰ををめりくく
 踏くごくつりや地衣ぶらうかこまうりう世
 くまびくくくと我先あくと逢さゆまみ海子梅

行あつてあハ流きてニヤブくく南正三つるごう
 櫓だく出て出てくくく根でハじんひうボウひう
 く九変化お化も大あつてくく歩は戸よかく
 なア
 妙よーやぶるやうした
 奇もあつてあを浮れーやぶるあ
 ハ手相かうてやへ思からう
 ハアハアとんご術はく其九変化のお化の大
 ありとあつてあつてあつた新歌曲ありわ

此の^{この}歌^{うた}は今^{いま}浪^{なみの}業^{わざ}で名^な人の松^{まつ}崎^{さき}檢^{けん}校^{けう}さぬ^ぬ潤^{うる}べ^べと^との^の歌^{うた}
聖^{せい}りらん^{らん}小^こ可^かき^きさつ^{さつ}も^もう^う祝^{いは}ひ^ひ中^{ちゆう}て^て之^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

上^{あづま}木^まなる^{なる}海^{うみ}と^との^のあ^あく^く回^わり^り事^{こと}さ^さく^く

長^{ちやう}ま^まい^いそれ^{それ}が^がや^やう^うさ^さの^の波^{なみ}の^の松^{まつ}崎^{さき}の^の檢^{けん}校^{けう}の^の信^{しん}傳^{でん}記^き

げ^げ下^げ着^{ちやく}者^{もの}お^おき^きも^もよ^よく^くさ^さの^のや^やし^しの^の割^{わり}と^との^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

光^{ひかり}秀^{ひで}との^の立^たち^ちの^のあ^あり^りと^とあ^あり^りて^て是^{こゝ}高^{たか}の^の内^{うち}も^も唐^{たう}装^{さう}束^{さく}束^{さく}の^の

子^こり^りり^りの^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

り^りの^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

との^の出^で入^いの^の場^{ばう}今^{いま}も^もで^でき^き川^{がは}と^との^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

ち^ちの^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

一人^{ひとり}して^{して}ち^ちや^やなる^{なる}も^もよ^よく^く信^{しん}傳^{でん}記^き

葛^{かつら}の^の浦^{うら}う^うの^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

云^いて^てく^くの^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

く^くの^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

と^との^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

新^{しん}野^の玄^{げん}松^{しょう}の^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

新^{しん}野^の玄^{げん}松^{しょう}の^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

妻^{つま}しく^{しく}海^{うみ}の^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

流^{りゅう}の^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

ま^まの^の歌^{うた}は^は流^{りゅう}の^のき

評判ひょうはんたのたのみみぞぞくく
 おおはは戸戸ををてて舞舞臺臺のの敷敷くく 芝芝翫翫玉玉
 菊菊りり評評判判ままじじりり
 筆筆一一かかんん

戲作堂

唐丸

英

志志多多かか賀賀見見東東傍傍下下終終

中村氏なかむらじああららひひききききああへへるる道みち
 ゆゆききぶぶららりり日ひ記きををららくく大だいのの戸こ
 目め録りきははいいままににおおくくららおおくくをを
 ろろははららののささゆゆ滑くわ移いりりのの多た
 くくししててああららううちちににももああららぬぬののししりり
 ここををつつくくせせららはは唯ただののゆゆをを板いたたなな
 ろろううををてて四よのの戲げ場ばののゆゆままりり
 りりののゆゆままりりののゆゆままりりののゆゆままりり

林書免發

- 京寺町通御池上 鉛屋安兵衛
- 江戸田所町 鶴屋金助
- 名吉屋本町十丁目 松屋善兵衛
- 大坂心齋橋通唐物町 河内屋太助

七月十八日しちがつじゅうはちにち賣うりり書しよ出しゆりり
 加賀屋かがや 芝翫栗元しよけんりしげ
 道中記みちちゆうき

全二冊

